



学生と教職員が協働する学内防災2019

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-01-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 伊藤, 康人 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/00016707

防災訓練体験記～障がい者個別訓練に参加して～

高等教育推進機構 佐藤鋭一

令和元年 11 月 6 日（水）に全学一斉防災訓練が行われました。私の研究室がある B3 棟では防災訓練の他に障がい者個別訓練が行われ、私はその訓練の担当として参加しました。今回の障がい者個別訓練は、地震発生時に車いすの学生をいかに建物の外に避難させるかを想定して実施されました。

当日、B3 棟での全体訓練は 2 限目の途中の 11:45 から開始し、B3 棟にいる学生全員が避難した後に 3 階の教室を利用して障がい者個別訓練が実施されました。地震発生時を想定しているのでエレベーターは使用できないとして、以下のような流れで訓練が行われました。

- ・ 地震発生後、授業担当役の教員（清原先生）が廊下に出て救出の応援要請をする。
- ・ 集まった教員（廊下に待機していた）のうち避難誘導班の教員 2 名（高根先生、深野先生）が 1 階事務室まで布担架を取りに行く。
- ・ その後、救出救護班の教員 3 名（吉井先生、水野先生、私）が車いすの学生役の職員を教室から階段の手前まで移動させる。
- ・ 階段の手前で布担架に移し（写真 1）、階段を使用して 1 階まで降ろし（写真 2）、そのまま建物の外に出る。このとき車いすは避難誘導班の教員が手に抱えて運ぶ。
- ・ 安全な場所を確保して再び車いすに移し、避難場所まで移動させる（写真 3）。

私は救出救護班として車いすの学生役の職員を車いすから布担架に移し、その布担架を持って階段を降りました。実は 10 月 23 日に訓練の事前打合せがあり、吉井先生が中心となって、車いすから布担架への移動や布担架の使用法のレクチャーがありました。そのため、当日は慌てることなくできたつもりですが、実際に布担架に人を乗せて階段を移動するのは初めての経験で、注意点も多く見つかりました。例えば、布担架は 3 人で運びましたが、3 人の息が合わなければ乗っている人を落としてしまう可能性があります。階段を降りる場合、脚部に 2 名の介助者、頭部に 1 名の介助者が支え、脚部から降ります。私は頭部を支えましたが、頭部が上下しないように一定の高さで保持する必要があります。乗っている人の体重による付加は主に脚部を持つ介助者に掛かるため、介助者の腕に疲労が蓄積してしまいます。頑張り過ぎず途中で休むことも重要だと感じました。また、この訓練は実際に車いすを使用する学生に、階段で降ろすところ以外の部分は見学して頂きました。その学生の感想を聞くことができなかったのは残念なところで、安心して身体を委ねることができそうだと思うのかは分かりません。

今回、西田機構長からの推薦で障がい者個別訓練に参加させて頂きましたが、とても良い経験をできたと感じています。B3 棟では、多くの授業が開講されているため、非常に多くの学生が建物の中にいることになります。したがって、災害時の避難においてはサポートが必要な学生も一定数いることが予想されます。教員は学生が安全に避難できるよう、

緊急時においても適切な対応を取る必要がありますが、サポートの必要な学生がいた場合、実際には適切な対応を取ることに困難だと思われます。今回、この訓練を経験させて頂いて、適切な判断ができるレベルになったとは思っていませんが、経験した場合としない場合では大きな差があるように感じました。ちなみに私は個別訓練を担当するまで布担架の存在すら知らない状況でした。今回訓練を担当した教員は6名でしたが、すべての教員・職員がこのような訓練を経験する場を設けることは大学としても非常に重要なことだと感じました。

今回の障がい者個別訓練では、アクセスセンターの職員の方が訓練の一部始終を写真で撮影し、吉井先生の監修のもと写真付きで「布担架の使い方」という資料をまとめられました。この資料は布担架と一緒に保管されることになり、資料を読めば使い方が分かるようになっています。

最後に、今回の訓練では、災害時の学生の安全確保について、多くのことを考えさせられた重要な一日となりました。



写真 1. 車いす学生役の職員を布担架にうつす様子。写真は高野さん（アクセスセンター）提供。



写真 2. 布担架にうつした職員を階段で降ろす様子。写真は高野さん（アクセスセンター）提供。



写真 3. 避難場所まで移動する様子。写真は高野さん（アクセスセンター）提供。